

日本作業科学研究会ニュースー作ら， さくらー第 10 号



発行年月日 2011 年 7 月 31 日
発行者 日本作業科学研究会広報係
ウェブサイト <http://www.jssso.jp/>

第 15 回作業科学セミナーのご案内

吉川ひろみ， 県立広島大学

「作業科学と社会」をテーマに， 県立広島大学（三原市）で開催します。9 月 24（土）午前は， 近藤敏さん（県立広島大学教授）の「我， 作業する， ゆえに我あり」と題した佐藤剛記念講演があります。午後はワークショップとしてテーマ別に小グループに分かれ， 参加される皆さんに普段の思いの丈を語り合ってください。テーマは「作業科学を知って変化したことは何か」， 「作業科学を作業療法にどう生かすか」などを考えています。9 月 25（日）の午前は岡本三夫さん（広島修道大学名誉教授）に「平和学の成り立ちと展望」をお話いただきます（関連サイト <http://www.okamotomitsuo.com/index.html>）。午後はゲイル・ホワイトフォード（Gail Whiteford）さん（オーストラリア， マッコーリー大学教授）に「作業と参加とソーシャルインクルージョン」をテーマに基調講演をお



願っています（関連サイト <http://mq.edu.au/newsroom/control.php?page=story&item=3564>）。また， 高木雅之さん（県立広島大学助教）と市民団体「つくろう三原」のメンバーによる「自分と社会のためにできること」と題した市民公開講座も予定しています（関連サイト <http://www.city.mihara.hiroshima.jp/shisei/kakuka/chiiki-sinko/mshien/ms23siengigyos.html>）。第 12 回作業科学セミナーで講演されたオーストラリアのアリソン・ウィックスさんの活動に触発され「作業科学をメインストリームへ」という取り組みが紹介されることと思います。両日とも演題発表があります。各種販売など NPO 法人ちゃんくすの協力を得て行います（関連サイト <http://chunksofactivity.blogspot.com/>）。参加費は 8 月 19 日までは会員 5,000 円， 非会員 7,000 円です。当日は会員 6,000 円， 非会員 8,000 円です。学生参加費は 2,000 円です。会費 5,000 円（当日徴収）で懇親会も予定しています。是非， ご参加ください。詳細は， 研究会ホームページをご覧ください。

第 45 回作業療法学会の報告

2011 年 6 月に埼玉県は大宮で開催された第 45 回日本作業療法学会は， テーマが「意味のある作業の実現」でした。そこでは， 作業科学の発展と連携しそうな話題が多く提供されていました。

● シンポジウム「参加から考える臨床実践」で発表して

NPO 法人ちゃんくす 西上忠臣
第 45 回作業療法学会でシンポジウムをする機会をいただきました。今回のテーマは ICF の「参加 (participation)」から作業療法の実践を捉えていこうというものです。「意味のある作業の実現」が今回の学会のテーマ。演題の中にも「意味ある作業」という言葉が多く使われていて、シンポジウムも「意味ある作業」を中心に据えて、ちゃんくすの活動を振り返ってみました。

ちゃんくすには、学校に行けなかったり、就職できなかったり、社会参加ができていない人たちが多く来られています。そのような方に私たちは、やってみたい作業、将来の目標、作業歴などを最初の面接で聞いて、それをプログラムにしています。作業をしていると時間を忘れて活動できたり、いつのまにか集団の中でペースをとっていたり、いつもと違う時間を過ごしています。また、作業と作業がつながって小集団ができることもあります。

そんな中で、今回のシンポジウムでは、サイトスピーカーを持って行きました。サイトスピーカーは、音にこだわりのある方が、音をとことん追求して作っている手作りスピーカーです。段ボールと麻布で本体を作り、スピーカー部分は廃棄物をリサイクルして出来るスピーカーです。製作のプロセスでは地域の方が関わりながらできています。

社会参加は作業療法では目標にされます。学校や職場に行く、地域生活することが目標になりますが、振り返ってみると、社会参加とは自己実現をするための手段になるんだな。と感じています。「楽しみたいから」、「買いたい物があるから」外出する。「やってみたい作業」に焦点をあてると社会参加せずにはいられません。作業療法は、そんな機会と時間を提供することなのかな。そう思いました。ひとり

でも多くの作業的不公正を解決するため、個人で出来る行動、仕事でできるような行動、そして、集合体としての作業科学研究会で「作業」を捉えるような活動をしていければ、と思います。

● エリザベス タウンゼント氏の特別講演を聞いて

帝京科学大学 近藤知子

Occupational Justice とは何か？この言葉を初めて耳にしてから、どうすればこの概念が腑に落ちるか考え続けていた。Justice という言葉を辞書で引いてみると「正義」や「公正」と出ている。英語で Department of Justice は、司法省のことで、裁判所の前にはこの言葉が書かれている。日本人の私には、「正義」や「公正」の言葉はあまり馴染みがない。正義から浮かぶのは「ヒーロー」であり、裁判所から浮かぶのは、罪の有る無しを判断する場所である。Occupational justice では、誰がヒーローなのだろう？誰が誰の正しさを判断し、その力を行使するのだろうか？

今回、第45回日本作業療法学会で、Elisabeth Townsend氏の特別講演「Enabling Occupational Justice in Hospital Practice」を聞いて、私のもつJusticeの概念を根本的に考えなおす必要があると感じた。調べてみると、Justiceという言葉の語源のjustには「適正な、ふさわしい」という意味がある (New Oxford American Dictionary)。また、do oneself justiceというフレーズには、その人自身の能力を十分に使う、つまりその人らしさを適切に扱うという意味がある。しかし、justiceには、「平等」「公平さ」という意味もある。欧米で描かれるjusticeの女神は、目隠しをして、剣と天秤を持つ。平等の判断は、権威者の独断で行われるのではなく、各々のもつ本質が偏見なく扱われることにな

され，その平等を守るために剣が使われると
いうことであろうか。

Townsend氏は講演で，作業を行えるように
するために行う環境への働きかけの全てを
occupational justiceと見なす事ができると
伝えた。氏によれば，occupational justice
には，作業療法士がクライアントのためにス
プリントを作ったり，自助具を考えたり，自
宅の環境を整備したり，社会システムに働き
かけたりするような働きかけが含まれ
る。Occupational justiceとは，作業の遂行や
選択が損なわれ・妨げられている人が，自分
自身を矯正したり，変化を強制されたりする
のではなく，環境や社会が，その実現を助け
るために準備されていることにより成し遂げ
られるのである。ここでは平等さは，作業の遂
行や選択を行う権利に対するものであり，平
等か否かの判断は，「人の本質」を見極めよう
とする全ての人，組織，社会に委ねられてい
るのだろう。そして人は，自分のみならず，他
者が作業選択において平等に扱われているか
を見定める成熟した目を持ち，平等のために
力行使する勇気を持たなければならない。
中でも，作業療法士は，氏の例をとれば，
occupational justiceのために，個人

(Individual)，集団(Group)，そして共同体
(Collective) に対し，その知識と技術を用
いて行動をとる事ができるはずだという。

Occupational justiceの概念をまだ十分に
理解できた訳ではない。しかし，Townsend氏の
講演から，「人が作業をする権利」，または「人
が理不尽に作業の遂行を損なわれる事のない
権利」について考える機会を得た。これは，今
年3月の東日本大震災の後，様々な人がおか
れている状態を想像し，そのために起こす事
ができる行動を考えるためにも役に立つ。つ
まり，障害を持つ人のみならず，作業の遂行
が損なわれるあらゆる状況において適応でき
る概念に違いない。



「作業的公正」の Dikaios Sakellariou 先生来日！札幌での研修会報告および 西九州での研修会のご案内

☆ 「作業科学 その理論と実践」の研 修会報告

坂上真理 札幌医科大学

5月15日，英国カーディフ大学の Dikaios
Sakellariou 先生を講師に「作業科学 その理
論と実践」の研修会が札幌で開催され，参加
しました。この研修会は，本研究会の会員で
もある北海道文教大学の向井聖子先生らの招
聘によるもので，午前中は Critical
Perspectives on Occupation and Disability
というテーマで作業と障害に焦点をあて，午
後は Occupational Justice をテーマとした二
部構成で行われました。午前中は，障害の定
義や，障害者と障害をもたない人の境界を問
う興味深いディスカッションが行われました。
障害の定義はある程度わかっていたつもりだ
ったのですが，Alison Lapper さん（イギリ
スのアーティスト；日本でいうと乙武洋匡さ
んのような方でしょうか）の動画を見ながら
の議論では，自分自身の中の障害の定義がゆ
らぎ，経験を問うことの意義を再確認するこ
ととなりました。午後は，作業的公正の事例
として英国ウェールズにおける貧困と健康不
平等の例が紹介されました。今回の研修会で

は、講演も勿論ですが、一緒に参加されていた医療人類学の先生からの質問とそのやり取りも興味深いものでした。質問は、「作業科学では、公正や作業的公正を相対なものとしてとらえているのですか？絶対的なものとして扱っているのですか？」といった内容でしたが、今後学際的な研究を進めていくためには、人々の意味のある作業を支える“社会”について、自分たちの認識論的立場も含めた説明が必要であることも理解できました。ところで、今年は日本の作業科学にとって「作業的公正の年」と言っても良いのではないのでしょうか。5月のこの研修会を始めとし、6月の日本作業療法士学会（埼玉）では Townsend 先生が、9月の作業科学セミナー（広島・三原）では Whiteford 先生が、それぞれ作業的公正をテーマにしています。この概念の重要性が高まっていることの現われと思われます。これを機会に、理解を深めていきたいと思っています。

◇ **大和日英基金主催 国際サマー・スクール OCCUPATIONAL JUSTICE AND THE ENVIRONMENT: MINAMATA AND BEYOND「水俣学から考える作業的公正と自然環境」開催のご案内**

青山真美 西九州大学

2011 年 9 月 2 日（金）～9 月 6 日（火）の 5 日間にわたり、西九州大学にて Occupational Justice（作業的公正）と自然環境をテーマにした国際サマー・スクールを開催します。今回、このテーマを考える題材として水俣学を選びました。水俣病は 1950～1960 年代、熊本県水俣市にある化学工場から海に放出された廃液により引き起こされた公害病で、食物連鎖により、魚を食べた多くの人々に有機水銀中毒が発生しました。この負の歴史的経験から多くを学び、後世に伝えようと始まったのが水俣学です。

このサマー・スクールには、イギリスから Dikaios（ディケオス）先生と 2 名の OT 学生が参加されます。また、ホスト役を努める西九州大学の 3 名の OT 学生は、ただいま水俣病と作業的公正について勉強中です！このサマー・スクールへの参加者を学生優先で若干名（3～5 名程度）募集します。

また、9 月 2 日（金）19:00～20:30, Dikaios 先生による講演会「作業療法学から見る社会と作業と健康」（定員 100 名）を行います。

サマー・スクール、講演会に関する問い合わせおよび参加希望者は下記メールまでお知らせください。

aoyamam@nisikyu-u.ac.jp

作業科学講習会参加者の感想

本年度は OT 学会に続き、全国研修会でもテーマは作業になっています。きっと多くの会員が興味を持って参加なさっていることとも思います。

もちろん都道府県士会でも作業をテーマとすることが多いようです。

去る 6 月 19 日に長野県作業療法士会研修会が“「生きること」「暮らすこと」と作業：「作業科学の視点」というテーマで開催されました。本研究会理事の近藤知子さんが講演をなさったそうです。当日は 350 人余りの県士会員があつまり、大きく反響があったそうです。

参加者より感想文を書いてもらいました。

「生きること」「暮らすこと」と作業：「作業科学の視点」に参加して

鹿教湯三才山リハビリテーションセンター
地域医療部訪問リハビリテーション科
作業療法士 前田睦美

この度、長野県作業療法士研修会で近藤知子先生に『「生きること」と「暮らすこと」：作業科学の視点から』というテーマでご講義

をいただきました。私自身が OT という職業に携わって徐々に出てきた疑問や不安, 葛藤が先生の講義の中でも示されており「そうそう, そうなんですよ!」と共感できる点がありました。また, 「今の方向でいいんだ」と勇気付けられる内容で晴れ晴れした気持ちで帰宅することができました。

まず始めに, ここ 10 年で作業療法士の数が急激に増加し, それも若い人たちが多くなってきているという実態をグラフで見せていただきました。私は OT の資格を取得してから今年で 7 年目ですが, ちょうどその右上がりのグラフに当てはまる年代です。指導者の手が回らなくなってきている今, OT という幅広い領域の職業をどれほど理解しており, それが実践できているのか, 私自身も含めて不安に思っています。理想の OT 像はあるはずなのに機能訓練の技術を習得することで満足していないだろうか・・・そんな不安が最近あります。

「作業が人に与える影響」について, 実際の臨床場面を思い出しました。私は訪問リハとして認知症初期の 94 歳の A さんのお宅に週一回訪問しています。同居しているお嫁さんとの仲はあまり良くななく, お嫁さんも A さんのことを「昔と変わってぼけてしまった」といつも話します。A さんは 10 年前までは広告を折って籠を作ったり, 編み物をするのが大好きでしたが, 今は膝や肩も痛くなり臥床している時間が長くなりました。ある日, 「もう一度手づくなやってみない?」と提案すると A さんは自信なげに「できるかな」と。しかし可能性はありそうだと思い, お嫁さんにも相談してみました。「ぼけてきたから無理ですよ」と断られました。それでも諦めきれずに再度お願いしてみたところ, 承諾を得て, 試しに編み物を持っていきました。すると, A さんは一人でスイスイと編み始めたのです。その表情はいつもの A さんではなく, 自信をもった強気な顔でした。それを見たお嫁さん

は「できるね」と言い, その言葉からはいつもの冷たい言葉ではなく, 驚きと嬉しさが伝わってきました。手工芸という「作業」を通して, A さんの昔から持っていた能力が表れ, A さんが有能感を得ることができただけでなく, お嫁さんの A さんに対する見方を変えることができたと思います。このことはとても大きなことだと感じ, 「OT で良かったな」と満足している自分がいました。

ADL, 趣味, 仕事などの作業を通してその方の生活や価値観を取り戻していけるような作業療法を目指していきたいです。しかしそのエビデンスを示すことは難しいなとも感じています。作業科学は作業療法を実践していくうえで, 私たちのやっていることが正しいと確認できる学問だと改めて思い, もっと深く知りたいと思いました。貴重なご講義をありがとうございました。

平成 22 年度 第 3 回日本理事会報告

日時:平成 23 年 6 月 24 日(金) 19:00~

場所:パレスホテル大宮 ペイサージュ(さいたま市)

出席:港, 西方, 村井, 青山, 酒井, 小田原, 近藤, 西上, 坂上, 古山

【議題】

1.各担当からの報告と検討

1)機関誌(村井, 青山, 酒井)第 5 巻を 11 月-12 月に発行し, 会員に発送する予定。会費未納者への発送基準について次回総会で提案する。研究論文募集中。

2)ホームページ(西方)

・前担当者からの引き継の実施。アクセス件数 2011 年 6 月時点で 26807。

・第 15 回作業科学セミナーとの連携。事前申し込みと演題登録を JSSO のホームページにて実施。

3)広報・研究会ニュース(近藤)

・研究会ニュース第 9 号を 1 月に発行。JOS

Vol.17 号 (3) 抄録の翻訳が完了し, JSSO ホームページへの掲載を依頼.JOS Vol.17 号 (4) 抄録の翻訳作業中.

・会員用メーリングリスト作成の提案と承認. 担当委員 2 名 (西方佳子氏, 上江州聖氏) の推薦と承認. 委員を中心に利用規定, 個人情報保護等に関する案を作成する.

4) 学術研究会 (第 15 回作業科学セミナー, 三原) (古山)

・6 月 3 日より事前登録と演題募集を開始. 現時点の事前登録 12 件, 演題募集 0 件. 広報用チラシの作製と配布を実施.

5) JOS (小田原)

・JOS Vol.17 号 (3) 抄録翻訳のホームページ掲載について担当者に確認.

・JOS 担当者を国際交流委員へ名称変更し, ISOS 窓口を兼務するよう次回総会で提案.

7) 会長から (港)

・会員の意見を聞き, 委員の増強を図りながら新しい活動を検討する.

・作業科学セミナー演題採択に関する方針の明確化. ガイドラインの作成, 次期セミナーへの引き継ぎの徹底, 査読結果の委員 (理事) への連絡など.

・作業科学論文翻訳のホームページへの掲載準備中. 継続可能性について継続的に検討.

2. その他

1) 会員登録数 440 名, 会費納入者 172 名. 予算実行状況: 現在残金 536, 277 円

2) 総会 (セミナー) 開催時期に応じて会計年度締め切りを 9 月末日から 6 月末日に変更する件について, 次回の総会で提案する.

3) 理事の任期延長の必要性について. 継続的に検討する.

4) 次々回 (2013 年度) セミナー開催候補地. 茨城, 宮城, 大阪.

海外の作業科学者の集いに参加してみませんか?

◇ **第 10 回アメリカ作業研究会 (SSO:USA) 学術研究会**

テーマ:

山頂からの省察: 学術的共同体としての 10 年から学ぶ

時: 2011 年 10 月 20 日~22 日

場所: ユタ州 パークシティ

ルース・ゼムケ記念講演: 「約束」

ドリス パース氏

詳しくは 2011 www.sso-usa.org をご参照ください

◇ **2012 年カナダ作業科学研究会 (CSOS) 演題募集中**

テーマ: 作業に関する優れた学問連携・専門職連携を育てる

時: 2012 年 5 月 3 日~5 日

場所: アルベルタ州, エドモントン

タウンゼンド・ポラタイコ記念講演:

デビー ルドマン氏

演題応募締め切り: 2011 年 10 月 3 日

編集者からのお知らせ

お知らせなど, このニュースに掲載したい記事がある会員は, 西野歩 nishino@sigg.ac.jp まで, お送りください. ニュース発行は年 2 回の予定です. 近藤知子・西野

事務局からお願い

本研究会は平成 22 年 10 月 1 日から平成 23 年 9 月 30 日までが，平成 22 年度になります。会員の方は，会費の納入をよろしくお願ひします。新年度への移行に伴いホームページの会員専用サイトパスワードは，12 月 1 日に変更いたしました。平成 22 年度パスワードは会費を納入された会員の皆様に順次発行されますので，会費の納入はお早めにお済ませください。